

所報



特集 授業研究

巻頭言

授業研究を楽しむ



大阪教育大学 教授 木原俊行

授業研究を楽しむ。そういう発想で、これを企画・運営できないものか。もちろん、この研究活動は、その企画・運営に時間やエネルギーを費やさざるをえないため、ある意味では教師たちの負担になる。それは、筆者も重々承知している。しかし、それでもなお、「授業研究を楽しみましょう」と、あえて訴えたい。

どのようにすれば、楽しく、授業研究を推進できるのか。それは、まず、この営みをどのように定義するかに依存する。授業研究を、誰かが研究授業を実施し、その問題点を見学者が非難する機会であると理解すると、痛みを味わいたくないから、多くの人がある実施を避けたくなる。逆に、授業研究を、誰かが卓越した授業を実施し、その授業技術等を見学者に指南する場面であると把握すると、少なからぬ人が、その権威性に嫌気がさすだろう。

授業づくりがマニュアル化できない取り組みであることは、衆目の一致するところである。それゆえ、授業研究は、永遠に「正解」を得ることのできない探究であると考えべきだ。そうした探究において大切なのは、非難や指南ではなく、「語り」である。換言すれば、研究授業を題材にして、同僚間で授業づくりに関するアイデアを交流させることが、授業研究の役割であり、機能なのだ。だから、教科書会社による指導書の展開をまねて上手に授業を進めるという保守性は、

授業研究にはなじまない。実施する教師なりの「チャレンジ」がそこに組み込まれていた時に、「私も、似たような取り組みに着手してみたい」「そういえば、こんなこともできるかも——」といった、授業アイデアの環流は誘発される。

さらに、授業アイデアの交流は、いくつかの道具や環境設定によって、活性化し、充実する。例えば、授業を見学して抱いた「気づき」を付箋紙や授業評価シートに書き出し、それらを出し合って分類する活動を通じて教師間の意見交換を盛り上げる協議会が、学校現場に普及しつつある。模擬授業を実施して、研究授業の実施前から、同僚間の知恵の共有化を図っている学校も珍しくはない。研究授業後の協議会の終盤に、研究授業や協議会における意見交換を踏まえて、各人が自身の授業改善プランを作成し、報告し合う場面を設定するという協議会のデザインを採用している学校も登場している。

つまり、考え方と工夫次第で、授業研究は、参加者全員にとって得るものが多い場となる。そうなれば、教師たちは「授業研究を楽しむ」時間を過ごせるはずだ。ここ数年、広島の地では、「授業研究を楽しむ」教師たちの姿が確実に増えていると感じる。その熱がいつそう高まり、またその輪がさらに広がることを祈念してやまない。

もくじ

- 特集 授業研究～巻頭言 P.1
- 特集 授業研究～口田中学校の取り組み P.2
- 特集 授業研究～本川小学校の取り組み P.3
- 先生方の自主的な研修を支援します P.4
- 研究成果 指定都市教育研究所連盟第15次共同研究の活用 P.5
- 教育センターひろば P.6

特集 授業研究

口田中学校の取り組み

校長先生が語る「本校の授業研究」 瀧口 典子 校長

先生方から「授業で生徒が生き生きと学習するためには、生徒自らが活動する場面をつくるなど、授業展開を工夫する必要があるのではないか。」といった声が聞こえてくるようになりました。私も同様の思いを抱いていましたので、その声を内心うれしく聞きました。そこで、生徒同士が互いにかかわり合って学習を進めていけるよう、生徒指導の3機能を生かした授業を目指し、小グループによる学習活動を効果的に取り入れていくことにしました。

最初の協議会は緊張した雰囲気発言も少なく、先生方が積極的に協議会に参加することの必要性を感じました。そこで、サテライト研修に応募し、教務部・研究部を中心に、協議会に付箋紙法を取り入れるなどして、独自の研修スタイルを工夫してきました。実際に取り組んでみると、教科は違うものの多様な視点で生徒の学習の姿を見取り、先生同士が自分の思いを語ることによって、学び合うことができました。先生方の情熱とつながりの強さを感じています。生徒との面接で「勉強は苦手だけど、授業が楽しいし頑張ろうと思う。」という声を聞き、これまでの取り組みの成果を実感しています。

今後は、生徒が分かる楽しさを一層感じる授業づくりに取り組み、学力向上を図っていきたいと考えています。

取り組みの工夫

授業についてみんなで語り合う1年目にするため、次のような工夫をしました。

協議会の実践では



Point

- 誰もが授業提案しやすくするために、統一書式の学習指導案を提案し、学習指導案作成の負担を軽減しました。
- 誰もが発言しやすい協議会にするために、付箋紙を用い、学年単位の授業研究を進めました。

夏季休業中の交流研修会では

- 学校として「目指す授業像」について、意見交流する場を設定しました。

協議会の実践で

統一書式の学習指導案は、授業の見取りの視点と学習の流れが分かる、平易なものにしました。学年単位のグループで行うこととし、学習指導案に明記した授業の見取りの視点に基づいて、付箋紙を用い、全員が発言できるように留意しながら、協議を進めていきました。

夏季休業中の交流研修会で

「授業実践上の課題は何か」「どんな授業をしたいか」について、一人一人の意見をKJ法で分類・整理しました。その後、「目指す授業像」について全体で意見交流しました。

本年度

「思考力・判断力・表現力を高めるための学習展開の工夫」を授業研究の共通テーマとし、学年別に加え、全体や教科別の協議会を行い、学力向上につなげていきたいと考えています。

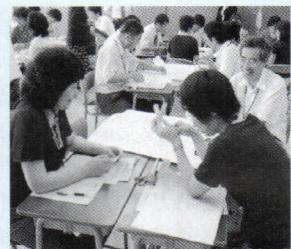
推進担当者が語る「これまでの取り組みから得たこと」 松原 千奈美 教諭

1年目の目標は、授業研究及び協議会に対して、先生方にプラスのイメージをもってもらうことでした。2月の校内研修会の後、先生方から「よかった。」「楽しかった。」という声が数多くあがり、目標を達成できたと感じています。それは、小グループでの学習活動に関する授業者の工夫を見て、各先生方が具体的にイメージをもてたことや、協議会で遠慮なく話し合えたことによるものだと思います。

協議会の中で、「自分の授業ではやる気を見せなかった生徒が、今日のような小グループでの学習活動を取り入れることで、こんなにも頑張るのだということに気付いた。」と、成果を具体的に確かめることもできました。

また、「短い時間でも小グループによる学習活動が可能であることを知った。」「全体の活動とグループでの活動とを切り替える際の、声かけの仕方を知った。」などの気付きは、互いに授業を見て協議したからこそ実感できた、先生方の貴重な学びだと思います。

これからも先生方が「やってよかった。」と思えるよう、授業づくりや協議会のもち方を様々に工夫し、成果を一つずつ積み重ねていきたいと思っています。



教育センターと連携して取り組んでいる学校の実践

本川小学校の取り組み

校長先生が語る「本校の授業研究」 空間 浩道 校長

子どもたちを中心に組織を創りあげていきたいというのが校長としての私の基本的な考え方です。そのために、先生方が日々の授業において全力を出し切れるための環境づくりや授業力向上のための支援を、教頭と考えてきました。

そこで、研究部を中心として先生方一人一人が「授業研究の時間は必要だ。」「授業研究の時間が欲しい。」という気持ちになるように、協議会の活性化に向けて取り組んできました。最初は、「協議会では決まった人（その教科に詳しい先生やベテランの先生）だけが発言し、教職経験の少ない先生がなかなか発言しにくい。」「協議の柱を立てても深まりにくく、話が研究の視点以外のことにそれてしまう。」などの課題がありました。しかし、子どもたちの見取りについて工夫をしたり、特別支援教育の視点や考え方を取り入れたりするなど前向きな姿勢で取り組みを重ねた結果、授業者が「みんなから意見をもらってよかった。」と思えたり、参加した先生方が「あ、そうか。」と新たなことに気付いたりできる協議会に近付いてきました。授業研究に取り組んだことで、自分のクラスや自分自身の成長につながっているという自覚が、先生方一人一人の中に生まれてきていることを実感しています。

今年度は全体研修会を年間7回に増やしました。みんなで授業を見て、みんなで授業研究をし、授業力向上を目指そうという雰囲気の広がりを感じています。

取り組みの工夫

ここが



Point

- 子どもの見取りを焦点化するために、事前の準備を工夫しています。（見取りの視点を学習指導案に表記する。司会者が授業展開を把握しておく。など）
- 協議会を活性化するために、付箋紙の使い方や協議グループの編制を工夫しています。
- 協議内容を生かすために、協議会後に振り返りの場を設定しています。

授業公開の場面

子どもを見取る、その視点別に、色の違う付箋紙に記述します。

協議会の場面

目的により、学年別、縦割り、年齢別などグループ編制をし、小グループで協議します。観点を明確にして付箋紙を分類・整理します。
「例 よかったこと、課題、改善点」

協議会后

「振り返り学年会」を実施し、個人の学びを共有化します。研究部会でも協議会の振り返りを行い、次回の方角性を決定します。

本年度

さらなる授業力向上のためには、「振り返り学年会」を継続し、自分の実践に生かすという意識の高揚を図っていききたいと考えています。

推進担当者が語る「これまでの取り組みから得たこと」 樋口 正美 教諭

最初は、協議会の司会者として、「どうにかまとめないといけない。」と思い、しゃべってばかりいましたが、司会者は、いろいろな人に発言を求め、引き出すことが重要な役目だと分かってからは、できるだけ発言を引き出すように意識しながら協議会を進めてきました。その結果、協議会が、みんなで意見を出し合いながら、みんなで学んで、次の自分の授業に生かせる工夫・改善の視点を得ることができるようになったという意識が次第に生まれてきているなど、実感することができました。

その理由として、協議会が終わった後も職員室で「この教材はどんなふうに解釈すればいいのか。」「この教具はどう活用すればいいだろう。」など、授業について話題にすることが多くなったことや教職経験の少ない教師が授業中の子どもの姿から、これまでにはなかった新たな見方ができるようになってきたことが挙げられます。

また、協議会の内容も学校の研究主題を意識しながら協議できるようになったり、同じ場面を取り上げて対立した意見の交流をしたりすることを通して深まってきたと感じています。



先生方の自主的な研修を支援します

本年度、教育センターでは、先生方の自主的な研修の場を提供するために、土曜開館を本格的に実施するとともに、平日の開館時間延長（試行）に取り組んでいます。その概要について、お知らせします。

土曜開館

本年度、土曜に開催されるセミナーは「マイ・セミナー」と「サタデー広場」の2部構成になっています。5月16日に実施されたこれらの様子をご紹介します。

◆ マイ・セミナー 9:00～12:00

学習指導、学級経営、ICT活用などのテーマに基づいた研修を実施しています。実施途中からの参加も受け付けています。

回	実施日	テ ー マ
1	5 / 16	シリーズ学習指導①「発問を工夫する」
2	6 / 20	②「学習指導案をつくる」
3	7 / 11	③「模擬授業に取り組む」
4	9 / 12	シリーズ学級経営①「教室環境をつくる」
5	10 / 17	②「子どもの内面を理解する」
6	11 / 14	③「人間関係をつくる」
7	12 / 19	明日から役立つPowerPoint演習
8	1 / 16	明日から役立つExcel演習



シリーズ学習指導①では、道徳の教材を用いて発問の理論について学び、小グループで導入の発問を考え、模擬授業を行いました。



受講者の感想

- 授業に向けてどのような準備が必要なのか、知ることができた。
- 子どもに伝わる言葉の引き出しを増やせたことがうれしかった。
- 導入の発問について、もっと知りたいと思った。

◆ サタデー広場 13:00～16:00

教職経験3年次までの先生方が対象です。みんなでワイワイガヤガヤ、授業研究等の自主的な研修に取り組みながら、教師としての自分を成長させます。これから参加したいという人も随時受け付けています。

各自が年間研修計画を立案し、グループで話し合い、授業研究ハンドブック等をもとに、授業研究についての研修を行いました。

受講者の感想

- 参加したおかげで授業づくりに光が差しました。協力できるってすばらしい。
- 研修計画を立てることを通して、自分一人では気付けないことに気付いたり、自分の課題を深められたりしたことが、一番の収穫だった。
- これからは、「生徒のことを中心に」授業研究に取り組もうと思う。

平日の開館時間延長（試行）

「教育センターに行って、図書や資料を見たい。もっと遅くまで開館していたらいいのに。」このような先生方の声に応えるために、本年度は、長期休業中以外の毎週水曜日に開館時間を午後8時まで延長して、ご利用いただいています。

利用者数実績

6月	24日	25名
7月	1日	5名
7月	8日	17名

教育実践相談の事例紹介（こんな相談を受けています）

土曜開館や平日の開館時間延長など、来所した皆さんから受けた教育実践相談の事例をいくつかご紹介します。

- 校内の授業研究や協議会の進め方について知りたい。
→付箋紙を取り入れた手法など、様々な情報を紹介しました。
- 算数・数学科における思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業づくりについて教えて欲しい。
→授業づくりについて協議を行い、学習指導案の作成のポイントをお伝えしました。
- 国語の学習指導案で学習展開やAやBと評価される児童・生徒の具体的な姿で参考になるものを紹介して欲しい。
→授業づくり支援室にある学習指導案の中で、参考になるものをコピーして紹介しました。
- 少人数指導の実践に関して参考になる資料を提供して欲しい。
→図書資料室にある図書や教育雑誌の中から、少人数指導の実践に関して参考になる資料を紹介、コピーするなどして情報を提供しました。
- 平和教育や体育科の水泳指導に関するビデオを紹介して欲しい。
→図書資料室にあるビデオを紹介するとともに、水泳指導について参考になるお話をしました。

研究成果

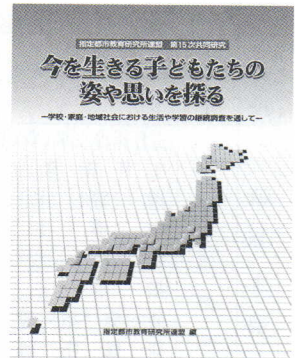
指定都市教育研究所連盟第15次共同研究の活用

指導主事 胤森 裕暢

1 指定都市教育研究所連盟の共同研究の方向性

指定都市教育研究所連盟は、これまで学校・家庭・地域社会での子どもたちの有り様を明らかにする調査研究を行ってきました。

今次の第15次共同研究（平成18～20年度）では、第14次共同研究（平成15～17年度）の調査結果との経年比較を通して、子どもたちの姿（実態）や思い（意識）について、変わったものと変わらないものと明らかにし、学校・家庭・地域社会による子どもたちへのかかわり方や、これら3者の連携等について提言をしています。



第15次共同研究報告書

2 第15次共同研究報告書の構成

本書は4章「家庭・地域社会における生活」「家庭・地域社会における学習」「学校における生活」「学校における学習」で構成し、43の設問について分析しています。

53ページの【第4章 学校における学習 4-7 認められた経験（設問40）】の場合

① 授業中に、先生や友だちから「認められた経験」が「よくある」と回答した子どもの割合は、第14次と比較して、小4、小6、中2のどの学年においても微増しています。

② 「授業参加の姿勢」と「認められた経験」との間には、授業中に「認められた経験」のある子どもが授業に「進んで取り組んでいると思う」傾向が見られます。

③ 本章の「考察とまとめ」では、「授業中にわかった喜びを味わわせ、互いに認め合えるような場面を意図的・意識的に設定しよう」と提言しています。

④ 終章では、子どもたちの姿（実態）や思い（意識）の変化について、「授業内容を理解できて楽しいと思っているが、達成感や自己肯定感を得られるような工夫が必要である」と述べています。

表4-7 授業参加の姿勢と認められた経験との関連 (%)

設問40	設問36			
	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいない	進んで取り組んでいないと思う
よくある	50.3	38.3	8.5	3.0
ときどきある	22.2	58.0	16.7	3.1
あまりない	10.6	51.6	31.3	6.6
まったくない	10.5	35.2	31.0	23.3

3 本報告書の活用方法

活用例①：自校の子どもたちの実態をつかむ（私の学校の子どもたちはどうだろうか？）

本報告書と同じ設問を用いてアンケート調査を行い、その結果を報告書の結果と比較して、自校の子どもの傾向を調べることができます。

調査問題 [小・中学生のアンケート調査]

教育センター内部Webページ>センター紹介(>研究報告)>平成19年度指定都市教育研究所連盟第15次共同研究調査結果 から、ダウンロードできます。

活用例②：教育実践の改善に生かす（これからの私たちの実践はどうするか？）

特徴的な調査結果を校内研修で取り上げ、今後の実践の見通しをもつことができます。